

ひめだ高宏ニュース

No. 728

06. 7. 26

日本共産党 和歌山市会議員

30日は市長選の投票日です。

多岐乱立の市長選挙と、それに連動した少数激戦の県議会議員の補欠選挙が、学校の夏休みが始まって明けぬ梅雨の中で争われ、30日(日)の投票日を迎えます。「住民が主人公の政治」の第一歩が選挙の投票です。棄権せず、ぜひ誘いあって投票に行きましょう。

小泉内閣の増税による負担増

自民党・公明党が与党の小泉内閣が行なった地方税の「改正」(増税)で、04年には、年収100万円を超える生計同一の妻に対する非課税措置の廃止・65歳

小泉内閣の増税による負担増

和歌山市で単身・年収180万円の場合

年度	2004	2005	2006	2007	2008
所得税	1,600	1,760	19,800	11,000	11,000
住民税	0	0	5,400	18,900	28,500
国民健康保険料	23,000	24,020	31,710	65,540	73,220
介護保険料	34,130	34,130	61,690	66,260	71,400
合計	58,730	59,910	118,600	161,700	184,120

以上の上の老年者控除の廃止・市民税の均等割の引き上げが、05年度には、定率減税の段階的廃止・65歳以上の非課税措置の段階的廃止(高齢者で合計所得125万円以下)となりました。

さらには公的年金控除の縮小(40万円から20万円に縮小)は、年金生活者の国民健康保険料と介護保険料の負担増を招いています。受け取る年金額が減ることで、

所得が増えたことになり、負担が増えることになり、表は、日本共産党市議員の後みつる議員の調査で明らかになった、今後の負担増の1つの例です。

こんにちは
県会議員の
ふじい健太郎
です。
(その157)

市内西ノ庄にオリックスとカゴメが出資して作ったトマト栽培工場が稼働しています。年間最大6千7百の生食トマトを出荷し、10年間で60億円の利益を見込んでいます。県はこの土地を土地開発公社から借りて20億円近くをかけて造成工事を行いました。この工場に転賃しています。県が支払う工場敷地37ha分の地代は2億1千万円、今年トマト工場が県に支払う地代は1億5千万円です。その



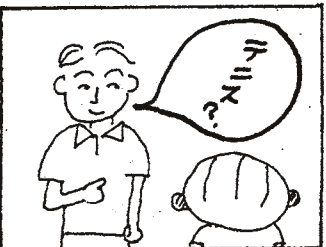
7月の人々



例年のように増けた



がんがうつるから?



ファミレス?



どっちも正解!!

ふじい県議議員定数を誇る

7月25日(火)ヒックグ愛の演説会で、日本共産党のふじい健太郎県会議員が県議会の定数削減について話をしました。話を聞かされたからんこともあるなと思いましたが、紹介します。

県議会の定数については①10数回の議論を経て、ようやく話がまとまって2月議会で現行の46議席に決めたこと。②その後、議員を

日本共産党 県市議会だよりできました

自治会長と後援会員向けの06.6月議会報告ができました。次週以降にお配りできるとしています。

44議席に減らせという運動が起ったこと。③議員は住民の代表であり議員を減らすことは住民代表を減らすこと。④県議会はすでに報酬カットで2600万円

交通費で1800万円を節約し、合計4400万円という金額は、議員2.6人分削減にあたるということになります。

日本共産党は経費削減に反対でなく、その中身が問題だということでは

こんにちは 日本共産党



「しんぶん赤旗」は、1928年2月7日に創刊しました。7月23日に通算で2万号になりました。

18年前の「赤旗」創刊

当時、天皇絶対の専制政治に反対したため、日本共産党は度重なる野蠻な弾圧にさらされ、「赤旗」もまた命がけの発行を余儀なくされました。しかし、そうした困難をおして「赤旗」は、天皇制による侵略戦争の拡大を告発し続け、平和の実現と国民が主人公になる政治を求めて論陣をはりました。

戦前の発行は18ク号で中断されましたが、その記録は国民の正義の主張として歴史に記録されています。

戦後再刊された「赤旗」は、公害など大企業の本無法の追及や戦争協力と海外派兵に反対するなど、国民のくらしと平和を守る報道を続けてきました。

おわび
前号で演説会の告知を20日としましたが、実際は25日でした。ごうもすみません。

潮流

(06.7.24 日刊) 家に帰りがる母。男性はいいました。「あかんねんで、もう生きられへんねんで」。母は「そっか、あかんか、お前と一緒やで」と応じた、といいます。▼ことし2月1日の朝、京都・桂川の河川敷。男性は、母の首をしめました。自分も死のうとしますが果たせず、相手の合意をえた承諾殺人などの罪に問われます。もはや家賃も払えず、事件前夜から、母を車いすにのせて思い出深い京の街を巡って、いきました。「最後の親孝行」に▼京都地裁が、54歳の男性に執行猶予つきの判決をいい渡しました。尊い命を奪った行いを非難しつつ、「被告人の絶望感は言葉ではいいつけられない」と、絶望の底に落ちたのは、行政です▼昼夜逆さまの認知症の介護と仕事か両立できません、男性は仕事をやめ

した。生活保護の相談に福祉事務所を3度訪ねますが、失業保険の受給を理由に認められませんが、「死ぬということか」。失業保険も切れます▼裁判官が説きました。「裁かれているのは承諾殺人だけではない。日本の介護制度や行政、とりわけ生活保護のあり方が問われている」。国家も尊い命を奪っている被告人です。悲しい事件が多すぎます。介護疲れ、殺人。生活保護の門前払いによる飢え死に、みるにみかねたような裁判所の生発は重い▼主のこの本紙は、10円玉の重みを報じています。生活保護を断られ、住まいも失った病気の夫婦が、最後の10円で日本共産党の事務所に通話し、救われた。人間運命が絶望にうちかちました。

しんぶん 赤旗 日刊紙 2900円/月